

1 単元名「柏市の観光マスターになろう」 教材名「取材して知らせよう」

2 単元の目標

- ・考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報の関係について理解することができる。  
[知識・技能(2)ア]
- ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。  
[思考力・判断力・表現力B(1)ウ]
- ・言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。  
[学びに向かう力・人間性等]

3 指導事項に合致した言語活動とその特徴

指導事項に合致した言語活動として「お家の人に柏市の観光について報告文にまとめて知らせる活動」を位置付けた。報告文にまとめて知らせるということは，報告する相手を意識し，伝えたいことをわかりやすく書く必要がある。また，取材したことと自分が考えたことを区別して書く必要がある。これらから，この言語活動を位置付けた学習活動を展開することで「取材してわかったことと，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる」という目標を達成できる。

4 単元について

(1) 教材観

「取材して知らせよう」は，取材して調べたことを報告文にまとめる学習である。総合的な学習の時間と合わせて，取材前に「調べたいこと」を整理し，「質問したいこと」も予め準備して臨むようにする。取材時間も限られているため，短い言葉で大事なことを書き留めておく「取材メモ」が必要になる。「取材メモ」の作成や活用を通して，箇条書きの意味や方法なども併せて学習できる。また，事前に社会科の学習でスーパーマーケットに見学に行った際にも，同じような流れで学習をした経験もある。いずれも，報告文にまとめることは，伝えたいことを端的に書き表すための効果的な方法である。繰り返し学習したり，まとめ方をしっかりおさえたりすることで，本単元でねらう資質・能力を身につけることが期待できるだろう。

(2) 児童の実態

本学級の児童は，男子15名，女子20名の計35名である。本単元を行うにあたり，「書くこと」に関するアンケートを取った。アンケートは以下のとおりである。

①自分の考えをわかりやすく書くことができますか。	よくできる	できる	あまりできない	できない
	7名	11名	12名	5名
②伝えたいことをわかりやすく日記に書くことができますか。	よくできる	できる	あまりできない	できない
	17名	14名	4名	0名
③友だちの考えで，よいところに気付くことができますか。	よくできる	できる	あまりできない	できない
	11名	17名	6名	1名
④友だちの考えを，自分の考えのさんこうにしたり，いいなと思うものは自分の考えに付け加えたりできていますか。	よくできる	できる	あまりできない	できない
	10名	13名	10名	2名

アンケート結果より，書くこと自体に抵抗のある児童が一定数いることがわかった。また，「自分の考えをわかりやすく書くことができる」児童は，クラスの半数しかいなかった。理由として，「書き方がわからない」や「書きたいことが思いつかない」といったことが挙げられる。しかし，以前に国語で学習した「生き物ブックをつくらう」では，「低学年にもわかりやすい文章で，自分が興味のある昆虫を調べてまとめる」という目標のもと学習を行った。その結果，どの児童も意欲的に取り組んでいる姿が見られた。おそらく①「誰に向けて書くのかという目的意識」②「昆虫を取り扱った教材の面白さ」が児童の学習意欲を喚起させたのではないかと考える。以上のことから，目的意識を持ち，書く必要性を感じることができたのなら，意欲的に学習できることがわかった。しかし，文章をよく見てみると，主語と述語の関連がないことや，聞いたり調べたりしたことと自分の考えにおいて文章の書き方が乱立していることがあった。また，書くこと自体に抵抗がある児童は，そもそもその間違いに気付けなかった。そこで，本単元において，改めて文章の書き方を確認し，取材したことと自分の考えを区別する書き方を丁寧におさえていきたい。さらに，学習に抵抗のある児童に対しては，本単元で学習する大事な言葉や見出し文などに枠を囲ったり，伝えたいことを一緒に確認したりさせたい。また，まとめ方に関しても，原稿用紙にまとめるのか，chromebookを用いるのかを選択させるなどして配慮していきたい。

(3) 指導観

第一次では，柏市の観光マスターになるため「kamon 柏」に取材すること，そこで知り得た情報をお家の人に報告することを伝えて，学習の意欲付けを図る。報告文にまとめる活動は，社会科のスーパーマーケット見学でも学習していることなので，自分の文章を見返したり，教科書を読み返したりして，改めて報告文の書き方を確認する。

第二次では、「kamon 柏」への取材体験を通して、自分が知りたかった柏市の観光についての学びを深めていく。「取材メモ」を用いながら、自分が思っていたことと実際の相違点や新たな気づきなどをメモし、伝えたいことを報告文にまとめるようにする。実際に報告文に書く際には、自分の考えを取材した内容と結びつけて書いたり、順序立てて書いたりするよう「取材メモ」を構成メモとして生かしていく。また、原稿用紙にまとめるのか、chromebook を使ってまとめるのかを個人に選択させる。これは、書くことに困難な児童でも取り組みやすいように配慮していくねらいがある。書き方が分からなかったり、悩んだりした部分に関しては、空白になってもよいことを伝える。その際は、グループ活動で補えるように支援していきたい。

本時では、「取材メモ」の中から、書く内容を決めてまとめた報告文を、グループで読み合う活動をする。読み合う際に、見る視点を与え、個々の報告文がより良いものになるよう、互いに推敲する。その際に、良い点は青で、もっと良くなる点は赤で書き記すよう促す。推敲し合うことで、互いの文章の書き方の良さに気付いたり、自分には考え付かなかった書き方やもの見方を知ったりすることができ、さらに工夫して書くことができるのではないかと考える。

第三次では、本時で推敲し合った文章を読み返し、より良い報告文になるようにまとめていく。その際に、アドバイスをもらった文章のみを見るのではなく、良かった部分を見返すことで、自分が書いた報告文の良さに自分で気付けるようにしたい。まとめあげた後は、再度グループ活動で報告文を読み返し、学習の振り返りをする。その後、お家の人にも報告文を読んでもらい、コメントをもらったり、お世話になった kamon 柏さんに報告文を見てもらったりすることで、活動への自信や満足感につなげていきたい。

### ○研修主題との関連について

本単元では、総合的な学習の時間と関連付けることで、柏市の観光大使になるために必要な知識や情報を主体的に選び、明確な目的を持って学習に臨めるようにする。その上で、外部人材を取り入れることでより深い学びができると考えられる。また、単元を通してグループ活動を意図的に入れることで、児童同士の対話の中から、報告文がより良いものになるよう多面的・多角的に意見を出し合い、深い学びにつながるようにしたい。

### ○他教科との関わり

総合的な学習の時間では、「柏市観光大使」になるために必要な知識や情報を、1年間を通して、「自然」「特産物」「観光」「歴史」の4つの分野に分けて学んでいく。情報収集では、ICT を使って調べるだけでなく、外部講師にインタビューしたり、見学に行ったりしながら学びを深めていく。取材してわかったことや自分の考えをまとめることにおいて、大切な要素が含まれていることから、スーパーマーケット見学でまとめた時と同様に、再度報告文でまとめることにした。繰り返し学習することで、知識の定着を図っていききたい。今後は、それぞれの分野から学習してわかったことを、今までに習ったまとめ方を使ったり、スライドなどにまとめたりして発表していく予定である。このようにして、様々な表現方法を通して、書く力を高めていきたい。

## 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報の関係について理解することができる。 ( (2) ア)	①「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B (1) ウ) ②「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができる。(B (1) エ) ③「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えること。 (B (1) イ)	① 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫し、粘り強く報告文を書こうとしている。

## 6 指導と評価の計画（11時間扱い）

学習過程	時間	学習内容・学習活動	評価規準・評価方法等	
一次 (見いだす)	1	○「柏市の観光マスター」になることをやる。 ・柏市の観光について伝えたいこと報告文まとめるという学習の見通しを持つ。 ・「Kamon 柏」に取材することを知る。	[主体的に学習に取り組む態度] <発言・振り返り>	
	2	○報告文の書き方を復習する。 ・以前書いたスーパーマーケットの報告文読み返したり，教科書を確認したりして書き表し方の工夫に気付かせる。	[主体的に学習に取り組む態度] <発言・報告文>	
二次 (自分で取り組む)	3	○「取材メモ」の書き方を知る。	[知識・技能] <取材メモ>	
	4	・調べたいこと・質問したいことを「取材メモ」にまとめる。 ・箇条書きについて理解する。 ・インタビューの仕方を理解し，計画を立てる。		
	5	○計画をもとに，「Kamon 柏」に取材をする。 ・「取材メモ」をもとに，気になったことインタビューしたりメモしたりする。	[知識・技能] <取材メモ・発言>	
	6	○取材したことをもとに，報告文の下書きを書く。		
	7		[思考・判断・表現] ③ <ワークシート・報告文の下書き>	
	8	・「取材メモ」の中から，書く内容を選ぶ。 ・「取材メモ」を構成メモとして利用する。 ・伝えたい内容を精選して書くようにする。 ・グループごとに，取材した内容を確認する。		
	9 (本時)	○報告文を読み合う。 ・推敲する視点を参考にしながら，グループで報告文を読み合う。 ・青鉛筆…「良い点」 ・赤鉛筆…「もっと良くなる点」	[思考・判断・表現] ② <報告文の下書き・発言>	
	10	○報告文を完成させる。 ・友だちの意見を参考に，報告文を完成させる。	[思考・判断・表現] ① <報告文>	
	三次 (まとめあげる)	11	○完成した報告文を読み合う。 ・伝えたいことが伝わっているかグループで感想を交流する。	[主体的に学習に取り組む態度] <報告文>
		事後	○お家の人にも読んでもらい，コメントもらう。 ○kamon 柏さんにも報告文を読んでもらいコメントもらう。	・次時の学習意欲につなげる。

並行学習

総合的な学習の時間  
「柏市観光マスターになろう」

## 7 本時の指導 (9/11)

### (1) 本時の目標

- ・報告文を読み合う中で、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができる。 [思考力・判断力・表現力等] B (1) エ

### (2) 展開

過程 時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) と評価 (◇)	備考
導入 (見 だす) 3分	1 本時の課題をつかむ。 ・前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	○前時までの学習を振り返りながら、本時のめあてを確認する。	
	どのようにすれば報告文がレベルアップできるのだろうか。		
展開 (自分で 取り組む) 7分	2 教師が書いた報告文を推敲する。 ・教師が書いた作文をグループで見合い、直した方がいいところを話し合う。  3 自分の報告文を確認する。 ・グループ活動をする前に、自分の報告文を読み返し、推敲してほしいところに線を引く。 ・視点①：取材したことと、自分の考えを区別して書いているか。 ・～ということです。 ・～そうです。 ・～がわかりました。 ・～と思いました。 ・視点②：作文の書き方	○どうすればより良い報告文ができるのか、教師の報告文を参考に、推敲する視点を明らかにする。  ・視点を確認することにより、活動への見通しが持てるようにする。	
(広げ 深める) 25分	4 グループで報告文を読み、推敲し合う。 ・3人1組のグループで学習する。 ・発表する順番を決め、取材したことと自分の考えなどが区別して書かれているか確認する。 ・青鉛筆…「良い点」 ・赤鉛筆…「もっと良くなる点」	◇報告文を読み合う中で、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているか確かめたりして、文や文章を整えることができているか。 [思考・判断・表現] <発言・推敲> ○良い話し合いが行われているグループがあれば教師が見取り、全体に共有する。	
まとめ (まとめ あげる) 6分	5 報告文を読み返す。 ・推敲後、変容が見られた児童の報告文を全体で共有する。 ・「報告文レベルアップ!ポイント」と照らし合わせ、自分の報告文を改めて読み返し、レベルアップできたか判断する。	○報告文を読み返す中で、新たに出た疑問点などがあれば、この場でグループの友だちに聞いてもよいことを伝える。	
4分	6 本時の学習を振り返る。	○グループでの推敲の時間を通して、自分の報告文がより良いものになったかどうか振り返り、次時への活動の意欲につなげる。	

